

～研究構想図～

単元デザイン

授業づくりの手だて

Ⅰ 単位時間の授業デザイン

研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った児童への働きかけとつながりを意識した手だて等、授業改善をすることで、児童の主体的・対話的で深い学びを実現できるだろう。

研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
～つながりを大切に～

目指す児童像

主体的・対話的で深い学びのある学習を通して、
学びを次につなげることができる児童

六小の目指す教育
「次代に生きる子供を育てる」

令和5年度の児童の課題（アンケート結果より）
・自分からすすんで学習すること
・自ら課題を設定し、学習すること
・学習したことを振り返り、次の学習に生かすこと

学習指導要領 第1章総則

「学校の教育活動を進めるにあたり『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善』を通して
創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で児童に生きる力を育むこと」

【これから子供たちが生きていく社会】

- ・2035年問題
- ・Society 5.0
- ・世界情勢等、分断、予測困難
- ・2050年に活躍する人ってどんな人？

～今後の社会において求められる力～

- 何が重要であるかを主体的に判断できること
- 多様な人々と協働することができること
- 新たな問題の発見・解決につなげることができること

単元デザイン

第4学年 社会科単元指導計画

1 単元名・題材名・教材名「わたしの国とわたしの町」

2 単元目標
 国内の伝統や文化について、歴史的背景や現在に至る経緯、保存や継承のための取り組みなどに着目して、見守りや継承などの重要性を調べたりして、まとめることで、文化財や年中行事の継承を捉え、人々の思いや考えを伝えることを通して、文化財や年中行事は、地域の人々が受けついできたことや、それらには地域の歴史など人々の思いが込められていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を発見・解決しようとする態度や、地域が持つ文化の保存や継承に関わり、自分たちができることを考えようとする態度を養う。

3 各教科等の見方・考え方
 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目し、自分や身近な人々の生活と関連させたり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること

4 学びの重点 → 主体的な学び、対話的な学び、深い学び

授業づくりのポイント「つながり」の重点 → 教科等・学年・領域・教材・人・生活・地域・その他

単元計画 全0時間(本単元時間数/0時間)

	学習活動	評価基準(評価方法)	主	対
1	・国内に属する古いものや資料からわかったことと疑問に思ったことを読み合ふ。 前話:文化財、年中行事	・国内にある古くから残るものについての歴史にわたるまでの経緯に着目して、思いを言い合っているかを評価する。【思考・判断・表現力】(記述内容・発言)をあらかじめ評価		対話的(互恵)
2	・くみやみ祭りに対して疑問を共有し、学習計画を立てる。 ・調べ方や発表方法を考える。 調べ方や発表方法を調べるか、集めて調べるとグループで調べるとそれぞれが決めらる。	・国内で受け継がれてきた伝統や文化について、季節や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているかを評価する。【主体的に学習に取り組む態度】(記述内容・発言)をあらかじめ評価		主体的(自己選択)

単元全体のめあて
くみやみ祭りは、どのようにして受けついできたのか調べ、CMをつくろう。

①各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を明確にし、授業を仕掛けることで、児童一人一人の“学び”に広がりや深まりが促進されるようにする。

②単元を通しての
 ・学びの重点
 ・つながりの重点
 (地域、教科等、学年、領域、教材、人、生活、その他)を設定する。

③本時のねらいや主な学習活動から考慮し、1単位時間に1つ重点とする学びを設定する。
 ④指導計画全体に主体的学び・対話的学び・深い学びを位置付ける。

高さの関係を調べよう。	
見付ける。 見付ける。 見付ける。	○1つ考えることができた児童には、2つ目の方法で比例関係であることを確かめるように声を掛ける。
大きさが2倍、3倍になると、周りが、正方形の1辺の長さと同じになる。 大きさが2倍、3倍になると、周りが、正方形の1辺の長さと同じになる。	対話-2「2人組活動」 着目した数や変わり方を根拠に、ペアで自分の考えを伝え合う。 ★着目した数や変わり方を根拠に、伴って変わる量が比例関係であるかどうかを説明している。【男】(ノート)(発言)
高さの関係を式で表すと、1辺の長さと同じの長さ	

1単位時間の授業デザイン

重点とする学びや六小版マトリックスを踏まえて、1単位時間の授業を計画する。

授業づくりの手だて (六小版 マトリックス)

	主体的な学び			対話的な学び			深い学び		
	授業づくりの手だて	実物・具体物	学習計画・見通し	選択	話形・スキル	相手意識	可視化	関連付ける(地域)	課題設定
場の設定		めあて	キーワード	ワークシート	グループ活動	共有	情報精査	教科横断	繰り返す
生活経験		あっさり振り返り		視点	中間指導		考えを形成	じっくり振り返り	

※あっさり振り返り ⇒今日の学習ができたか等の振り返り
 ※じっくり振り返り ⇒教科等の「見方・考え方」に迫る振り返り

特別支援教室（すずらん教室） 第3・4・5学年 自立活動

(2)9月から12月の具体的な学習内容

※各単元は2時間または3時間で、①すずらんシアター②動画(NH

	単元名	めあて	学習指導要領	①
9月	自分を知る	・自分のことを話す (主体的②-4、異部の仕方) ・いろいろな言葉を知る (対話的①-1、スキル)	6.コミュニケーション (1)コミュニケーションに必要な能力を身に付ける 3.人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎に関すること。	① (調)しよ ・道と; 業
10月	伝える	・わかるように伝える (主体的②-2、会話の進め方) ・場面に応じた声の大きさを考える (主体的②-3、様々な補助材料)	6.コミュニケーション (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること 6.コミュニケーション (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること	・し い味 ・人 は
11月	相手を知る	・相手の気持ちを知る (主体的②-6、当事者から学び) ・上手に話を聞くことができる (対話的①-6、話し合いの仕方)	6.コミュニケーション (1)コミュニケーションに必要な能力を身に付ける 3.人間関係の形成 (1)他者とのかかわりの基礎に関すること	・う う
12月	仲良くする	・友達の良いところを伝える	6.コミュニケーション	・

補助材料 → 主体的な学び



①コミュニケーションを円滑に行うためには、伝えようとする側と受け取る側との人間関係や、そのときの状況を的確に把握することが重要であることから、場や相手の状況に応じて、主体的にコミュニケーションを展開できるようにする。

②学びの重点 …………… 主体的な学び

②つながりの重点 …… 人

映像資料やボイスルーラーを使用し、状況に合わせた声の大きさについて具体的にイメージしたり実践したりする中で自分の課題に気づき、よりよい「人とのつながり」を考えることができた。

第2学年 図画工作科 「つくってみつけて、たのしんで!～しぜんの色～」



実物・具体物 → 主体的な学び

①見方・考え方 …… 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。

②学びの重点 …………… 主体的な学び

②つながりの重点 …… その他〔自然〕

題材のまとめとして草花の叩き染めの作品づくりを見通して、作品づくりで使う自然の草花を集める活動から始めた。草花からどんな色になるか、混ぜたらどんな色になるか等、想像しながら作品に向き合うことができた。

第2学年 生活科 「六小たんけんたいが行く」

～「いいね！」をさがしてしょうかいしよう～

- ①見方・考え方 …… 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事。
 ②学びの重点 …… 対話的な学び ②つながりの重点 …… 地域

<p>【学習目標】 1. 地域の歴史や文化について、身近な人々の話を聞き、地域の歴史や文化について理解を深めようとする事。 2. 地域の歴史や文化について、自分たちの生活と関わりを捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事。</p>	<p>【学習内容】 1. 地域の歴史や文化について、身近な人々の話を聞き、地域の歴史や文化について理解を深めようとする事。 2. 地域の歴史や文化について、自分たちの生活と関わりを捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事。</p>	<p>【学習活動】 1. 地域の歴史や文化について、身近な人々の話を聞き、地域の歴史や文化について理解を深めようとする事。 2. 地域の歴史や文化について、自分たちの生活と関わりを捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事。</p>	<p>【学習評価】 1. 地域の歴史や文化について、身近な人々の話を聞き、地域の歴史や文化について理解を深めようとする事。 2. 地域の歴史や文化について、自分たちの生活と関わりを捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事。</p>
---	---	---	---

中間指導 →対話的な学び



授業の前半と後半の話し合いの後に指導（中間指導）を入れることにより、話し合う内容が教員も児童も明確になり、活発な対話につながって、地域の理解を深めることができた。

第3学年 社会科 「わたしたちの暮らしとお店の仕事」

- ①見方・考え方 …… 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して、社会的な事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。
 ②学びの重点 …… 対話的な学び ②つながりの重点 …… 地域

共有 →対話的な学び



<p>【学習目標】 1. 地域の歴史や文化について、身近な人々の話を聞き、地域の歴史や文化について理解を深めようとする事。 2. 地域の歴史や文化について、自分たちの生活と関わりを捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事。</p>	<p>【学習内容】 1. 地域の歴史や文化について、身近な人々の話を聞き、地域の歴史や文化について理解を深めようとする事。 2. 地域の歴史や文化について、自分たちの生活と関わりを捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事。</p>	<p>【学習活動】 1. 地域の歴史や文化について、身近な人々の話を聞き、地域の歴史や文化について理解を深めようとする事。 2. 地域の歴史や文化について、自分たちの生活と関わりを捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事。</p>	<p>【学習評価】 1. 地域の歴史や文化について、身近な人々の話を聞き、地域の歴史や文化について理解を深めようとする事。 2. 地域の歴史や文化について、自分たちの生活と関わりを捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事。</p>
---	---	---	---

2段階の「共有」の実施 …… 1段階：見学時にメモした内容を3人のグループ、第2段階：クラス全体

第5学年 道徳科 「うばわれた自由」

- ①見方・考え方 …… 様々な事象を、道徳的諸価値の理解をもとに自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること。
- ②学びの重点 …… 深い学び ②つながりの重点 …… 教科等、自分自身

単元	学習目標	学習内容
第5学年 道徳科	「うばわれた自由」の学習目標	「うばわれた自由」の学習内容
1. 「うばわれた自由」の学習目標	「うばわれた自由」の学習目標	「うばわれた自由」の学習内容
2. 「うばわれた自由」の学習内容	「うばわれた自由」の学習目標	「うばわれた自由」の学習内容

中間振り返り →深い学び



授業の途中で学級の児童全員の考えを集約し、テキストマイニングした結果を示した。児童は自分の考えと示されたデータを比較することで、自己の生き方について考えることができた。

ことばときこえ 第1学年～第5学年 特別活動・総合的な学習の時間 理解啓発授業

じっくり振り返り →深い学び

理解啓発授業とは、発音、吃音、読み書き、難聴をテーマにした授業のこと。

②学びの重点 …… 深い学び

②つながりの重点 …… 生活、人

体験学習や当事者から学ぶ機会を設定（右上段写真：4年生保護者のゲストティーチャー）、多角的に学ぶことができるようにしたことで、「人はそれぞれ違う」、「見方・考え方を変えることで当事者のやりづらさが軽減する」と自分たちができていることを考える等、深い学びにつなげることができた。

～児童の振り返りの内容～

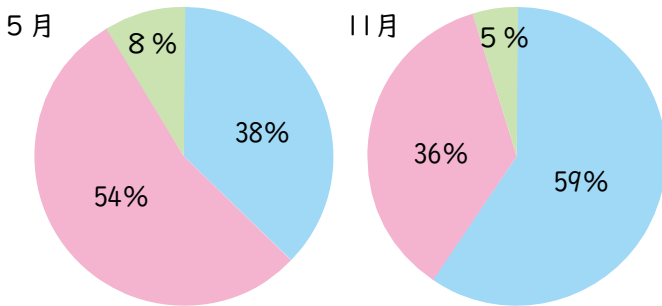
「最初は、読み書きの苦手があることを知らなかった。読み書きで合理的配慮があると、それが苦手な人にとって大事だから大切だと思った。1年生から5年生で学んで、いろいろな障害があると分かった。そして、それらを理解することで、救われる人がいるということが、より分かった。」（原文のとおり）



成果

「振り返り」を通して、児童の実態を把握し、次の授業づくりに生かそうとしている。

【教員アンケートより】



■ あてはまる
■ どちらかといえばあてはまる
■ あてはまらない

○授業改善の1つとして、1単位時間の中での児童の振り返りを設定し、内容を分析して、学習を進めていくことが研究主題に迫ることができると分かり、実践を積み重ねてきた。「あっさり振り返り」と「じっくり振り返り」のどちらかを1単位時間に組み込み、単元の中で組み合わせていくことで、児童自身が自己変容を自覚する場面を大事にすることができた。また、教員が児童の振り返りをもとにして、教員が次の授業づくりに生かすことができた。



「振り返り」をすることが深い学びにつながると実感！「あっさり振り返り」と「じっくり振り返り」のどちらかを1単位時間に組み込むことで、成果と課題を児童自身が把握でき、教員が次の授業づくりに生かせました。



六小の学区内の探検を通して、「地域とのつながり」を子供たち自身が意識するようになりました。

深い学びを実現するためには、各教科の見方・考え方を意識した授業づくりが重要。各教科の見方・考え方は幅広く、教員自身が見方・考え方をはたらかせて授業づくりをしていく必要があると感じました。

課題

学びを生活につなげることができる「質の高い学び」を目指して

○児童のアンケート結果について、全てのアンケート項目で、5月と11月で大きな変化が見られなかった。教員は、研究主題に迫るために「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業づくり」を意識して進めていたが、児童が自分自身の伸びとして感じられなかったと考える。今後、今回の研究で得た学びを児童の学習改善につなげていくとともに、さらなる地域連携や各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる授業、教科等横断的な学びといった「学びのつながり」のある授業を構築することで、学びを生活につなげることができる「質の高い学び」を目指したい。

研究を支える教職員の主体的・対話的で深い学び

オープン授業



相互授業参観

深いタイム



意見交流・教師の学び